

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿3 グローバル社会で活躍できる人材の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	高校教育課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和6年7月31日

グローバル社会において、国際感覚や世界的視野を持ちながら、協働して課題を解決する力や英語による発信力を身に付けた多数の人材の輩出を目指します。

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 英検3級相当以上の英語力を有 する中学校3年生の割合(%)	目標			54.0	56.0	58.0	60.0	83.8%	2	
	実績	39.1	—	44.4	46.9						
	達成率			82.2%	83.8%						
②	【施策の方向性②】 英語ディベート交流会等への参 加生徒数(人)	目標			105	110	115	120	137.3%	4	
	実績	75	61	136	151						
	達成率			129.5%	137.3%						
③	【施策の方向性③】 国際理解講座への参加者数(人)	目標			500	525	550	575	170.1%	4	
	実績	569	592	847	893						
	達成率			169.4%	170.1%						

定量的評価結果	計算式									
3.33 (b相当)	4点	×	2個	=	8点	1点	×	0個	=	0点
	3点	×	0個	=	0点	0点	×	0個	=	0点
	2点	×	1個	=	2点					

	合計		10点	÷	3個	(判明済み指標)	=	3.33		

[illegible]

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① グローバル化に対応した英語教育の推進】

- 県内全ALT 145名と小中高の英語担当教員55名が参加する指導力向上研修を4年ぶりに対面で実施し、児童生徒の発信力向上につながる効果的なティーム・ティーチングのあり方について学んだ。また、研修で使用する言語は英語のみとし、日本人英語担当教員の英語でコミュニケーションを図ろうとする意識が向上した。
- 悉皆で県内公立高校の英語担当教員を対象とした研修を実施し、即興型英語ディベートの指導について理解を深めた。学校訪問の際には、研修で学んだことを実践する授業が多く見られ、即興で話して伝える力の育成に寄与した。

【施策の方向性② 多様な国際教育の推進】

- 英語ディベートの普及を図るため、即興型英語ディベート大会を初心者の部と経験者の部の二部制として実施した結果、参加者が前年度より15名増加した。e-Debate交流会では、対戦後に互いに感想を述べたり英語の学習法について意見交換するなど、交流を通して学習意欲を高めることができた。
- 高校教育課の事業である「オンライングローバルラーニングプロジェクト」指定校の国際交流活動が活発に行われた。秋田南高校はオーストラリアでの研修旅行において、現地の高校を訪問し日本と秋田の文化についてプレゼンテーションを行った。能代松陽高校は、アメリカイリノイ州において、17日間の語学研修を行い、現地の高校でアメリカ人の高校生と一緒に授業を受けるなど、両校とも英語による発信力が向上するとともに、異文化に対する理解が深まった。

【施策の方向性③ 県民の国際理解の促進と多文化共生の推進】

- 県民の国際理解の促進を図るため、国際交流員による国際理解講座等を60回開催したほか、海外交流の架け橋となる人材を育成するため、南米秋田県人会の若手会員（延べ43人）を対象とした本県の伝統文化等に関するリモート講座（全4回）を開催するとともに講師2名をブラジルに派遣し、「竿燈まつり」に係る講義・ワークショップを実施した。
- 県内在住外国人の安全・安心で暮らしやすい環境を確保するため、秋田県国際交流協会内に設置した秋田県外国人相談センターや地域振興局単位に配置した地域外国人相談員（9人）が、在住外国人の様々な生活相談等に適切に対応した（相談件数：外国人相談センター336件、地域外国人相談員297件）。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
b	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.33で「b相当」であることから、総合評価は「b」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションができる能力が育まれている。					
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	14.0%	10.9%			△3.1
	十分 (5点)	1.0%	1.1%			+0.1
	おおむね十分 (4点)	13.0%	9.8%			△3.2
	ふつう (3点)	42.6%	37.6%			△5.0
	否定的意見	21.2%	29.5%			+8.3
	やや不十分 (2点)	14.1%	19.7%			+5.6
	不十分 (1点)	7.1%	9.8%			+2.7
	わからない・無回答	22.2%	22.0%			△0.2
	平均点	2.83	2.65			△0.18

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 英検 3 級以上相当の英語力を有する中学 3 年生の割合が前年度より改善したものの、文部科学省の求める 50% を下回っている。生徒の言語活動に関して、教師から生徒へのフィードバックが不足している。	○ 県教育委員会の英語担当指導主事による指導改善のための会議を開催し、学校訪問の際に教員に対して指導する内容の共有を図る。また教員研修において、現在課題となっている内容について扱い、教師の指導力及び生徒の英語力の向上を図る。
②	○ 即興型英語ディベート大会及び e-Debate 交流会への参加者が前年度より 15 名増加し目標を達成したが、参加校に偏りがある。	○ 進学校を中心に参加していない高校に対して参加を強く呼びかけるとともに、教員研修及び学校訪問指導において英語ディベートの教育的効果を周知する。また、参加校が増加しても対応できるよう、研修を通して審査員を務められる教員を増やす。
③	○ 企業の外国人材の受入促進などにより今後県内在住外国人の増加が予想されていることから、地域で生き生きと暮らしていくことができるよう、日本語教育の強化が必要となっている。	○ 令和 5 年度に策定した「秋田県日本語教育の推進に関する基本の方針」に基づき、関係機関と連携して日本語教育の環境整備を推進していく。

6 政策評価委員会の意見

--